

令和4年度 青果物販売情勢について

令和4年3月30日（水）現在

【 野菜 】

<きゅうり>

埼玉県産促成作の増量と東北産の促成産地が出荷開始となるため、全体量は増量に転じる見込みで、売場を拡げるために相場は弱保合となる見通し。

@A 1,400～

<いちご>

落ち着いた入荷量が続いたことで荷の流れがスムーズになっており、安定した販売状況から相場は保合となっている。

@2L 320～ @L 330～

<にら>

末端の荷動きが鈍化により滞荷気味のため弱保合での販売。

@AL 50～

<春菊>

気温上昇に合わせて入荷量の回復が見込まれ、4月に入り売場の縮小も進む見込みから相場は弱保合の見通し。

@A 60～

<アスパラガス>

先行する九州産は生育が遅れているが、産地によっては引き続き安定出荷が見込まれる。栃木県産の出方次第になるが、増量に伴い相場は弱保合の見通し。

@AL 180～

<えんどう類>

・さやえんどう

九州産の減少が見込まれるため、低価格で販売されていた先行産地は相場底上げとなるが、東北産ハウス作へ切り替えを進めるため、弱保合となる見通し。

@A 1,800～（ハウス）

・スナップえんどう

鹿児島県産が終盤のため、全体量は緩やかに減少となるが、福島県産ハウス作が増量を見込むため、先行産地からの切り替えを促すためにも相場を弱める見通し。

@A 1,200～（ハウス）